

《環境のお話》



500mlペットボトルの生い立ち

2007年12月

初めてペットボトルを見たのはいつ頃か覚えていますか？

日本でのペットボトルの始まりは、醤油の容器として使用が始められた1977年のことだそうです。ペットボトルの登場以前は、ガラスの一升瓶を使用していたので、軽くて、割れても安全なペットボトルは、関心を集める存在だったでしょう。

その後、その便利さはあつと言う間に広まり、清涼飲料水にもペットボトルが使用されるようになりました。でも、思い出してみると、ペットボトルの清涼飲料水って、昔は1.5Lや2.0L用だけだった記憶がありませんか？実は、当初は、『使い捨て』が行き過ぎてしまうことや、ゴミが増えるという市民の反対の声などから、飲料メーカーも小型ペットボトルでの飲料販売を自主規制していました。

しかし、その後、海外から輸入される小型ペットボトル飲料が増加してしまい、結局1996年に自主規制は撤廃されてしまいました。それ以降500mlのペットボトルが非常に多く出回るようになったのです。今ではすっかり定着している500mlペットボトルですが、こんな生い立ちがあったのですね。

Copyright(c) 2006 OKAYAMA CO., LTD. All Right Reserved



〒113-0034 東京都文京区湯島2丁目32番7号

TEL 03-5688-6700 / FAX 03-5688-6709 [E-MAIL okayama@kk-okayama.co.jp](mailto:okayama@kk-okayama.co.jp)